

中高の学びをつなぐための課題と連携の在り方 ～高等学校の視点から～

他校種との学びの接続を考えたとき、中学校と高校の間には大きな違いがあるように感じます。生徒の立場に立った接続上の課題を整理し、中高の学びをスムーズにつなげるための方策を考えていく必要があります。

1 生徒から見た中高接続上の段差

これらの段差に対し、生徒が**困り感**を感じていれば、その段差を低くするための**中・高双方の配慮**が必要です。

中学校	段差	高等学校
○ 板書事項をノートに写す時間を確保してもらえ		○ 先生の話聞きながら板書事項をノートに写す場面が多い
○ 具体物の提示、情報機器や教具を用いて学習内容の理解を助けてもらえ		○ 黒板やプリント（平面上）での図示による説明が多い
○ ペア学習やグループ活動など、生徒同士の話し合い・活動の場がある		○ 先生による講義形式の授業が多い
○ 授業の中でも課題解決の時間を十分に与えられる		○ 家庭での予習、事前の準備が求められることが多い
○ 個別指導は場所を指定され、複数生徒と一緒に参加することが多い（教師に呼ばれることが多い）		○ 職員室でのマンツーマンでの個別指導が頻繁に行われる（自分が教師に申し出ることが多い）

家でどんな勉強したらいいんだろ...。一人じゃ勉強できない～！

予習をしないとついていけない...

週末課題が終わらない！
普段からもっと計画的にやっておけば良かった...

高校の授業の進度は速いなあ。先生の説明を聞きながらノートをとるのも大変...

質問したいけど、こんなこと聞いたら怒られるかなあ...



この他にもこんな変化があります。

- ・授業の進度 ・指導者の字の大きさ
- ・課題の出し方（日々題・週末課題？、学年主導・教科主導？）
- ・問題集の形式（書き込み・問題のみ？）
- ・辞書（紙・電子？）
- ...etc

2 段差を低くするための中学校における指導の工夫

- (1) 生徒の発達段階に応じて、教師や友人の話を聞きながら板書事項をノートにまとめる授業形態を意図的に取り入れる。
- (2) 一定量のまとまった課題を、自分で立てた学習計画に基づいて実践し、やり遂げたという成功体験を味わうことのできる学習場面を設定する。※ 達成できなかった生徒には、個別指導で対応。
- (3) 自分の力で解決できないような疑問点や学習内容については、授業終了後や昼休み、放課後等を利用して自ら教師に質問するよう促すとともに、それが可能な校内の学習環境を整える。
- (4) ただ課題を与えていくのではなく、生徒自らが課題を設定した探求的な学習の場面を取り入れる。
- (5) 生徒自身に自分が集中できる環境（場所）を見付けさせ、乗り越えるべき課題に一人で向き合う習慣を身に付けさせる。

3 中高それぞれの校種における授業改善に向けての課題

〈中学校〉

- ・教師主導の授業で、生徒の考える（伸びる）時間（機会）をうばっていないか
- ・素材を十分に生かした授業構想か
- ・授業のリズム、テンポは適切か
- ・退屈している生徒はいないか
- ・効果の伴わないペア学習、グループ学習をしていないか

〈共通〉

- ・生徒の思考に沿った授業をしているか
- ・単位時間の授業のねらいとまとめの整合性は図られているか

〈高校〉

- ・教師の一方的な説明に終始していないか
- ・教室全体の雰囲気と生徒の表情を見て授業をしているか
- ・寝ている生徒をそのままにしないか（生徒の自己責任で片付けて良いか？）
- ・自分の授業の振り返りをせず、中学校のせい、勉強しない生徒のせいにしていないか

4 中高連携の在り方

- 生徒を**送り出す責任、受け入れた責任に使命感**をもち、困っている生徒の立場になって具体的方策を考えることが出発点になります。
- 隣接する中学校・高校間での取組から始め、個々の生徒の進路選択や地域全体の学力の向上、さらには**双方の教員の指導力向上に結び付くよう連携の内容を工夫**する必要があります。
- 中高の教科書の内容を系統的に理解し、**互いの校種を意識した意図的な授業展開**を取り入れましょう。
中： 「高校では～なるよ」「この続きは高校で」「なぜこうなるのかは高校で詳しくやります」
高： 「中学では～だったけど、高校では…」「中学生の解法でも考えてみよう」

予想される生徒の姿を想定に置きながら、お互いの校種のよさを取り入れることが大切です。